

5つの  
尼崎らしさ  
(特長)



受け継がれてきたもの

・高い交通利便性と高い生活利便性による生活の充実感

・尼崎ならではの近い距離間  
・困っている人をほっとけないひととまちのあったかさ

・公害を乗り越えた市民・事業者・行政の団結力

・産業のまちとして発展してきた尼崎ならではの技術力

・公害を乗り越えた市民・事業者・行政の団結力

・人が集まり発展してきたことによる多様性

・過去から時代に合わせて変貌を遂げてきた対応力

・人を受け入れることで根付いた尼崎の人情味ある市民性

・ピンチをチャンスに変える底力

・住工混在が生む地域と企業の密接な関係  
・商売人気質  
・新旧混在の魅力

・市域の3分の1が海拔0メートル地帯である尼崎ならではの防災意識  
・行財政改革の取組

今の取組

・ファミリー世帯の定住・転入促進に向け、総合的に取組を進めている。

・いくしあを中心に子どもたちの育ちに寄り添った切れ目のない子どもファーストな支援をめざしている。

・尼崎市自治のまちづくり条例という自治の理念を制定

・経済成長と低炭素が両立する新たな産業都市モデルの実現へ（環境モデル都市として）

・住宅の質的向上と住まい方、暮らし方を一体的なビジョンとして捉え取組を推進中

・多様性を認め合う社会の実現に向け、パートナーシップ宣誓制度がある。

・「みんなの尼崎大学」や「みんなのサマーセミナー」など学びあえる、活動できる環境・仕掛けがある。

・創業支援オフィスABiZにおける人材の発掘と支援

・尼崎21世紀の森づくりの推進など自然と共生したまちづくりが進行中

・コンパクトで平坦な地勢を活かした自転車のまちづくりが進んでいる。

・人権文化いきづくまちづくり条例の制定

・生涯学習プラザを拠点に地域主体のまちづくりを進めていく環境を整備

・将来の産業界を担う若者の育成を図るため、長期実践型インターンシップを実施中

・使用するエネルギーの低炭素化・脱炭素化に向け取組を推進

・街頭犯罪の件数が大幅に減少している。

・自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的に課題解決型学習を実践

・市民提案制度や協働契約というパートナーシップを深める仕組みがある。

・尼崎城や歴史博物館など新たな地域資源の創出

・ファシリティマネジメントの取組を着実に推進

・市内全域での歩きたばこを禁止する尼崎市たばこ対策推進条例を制定

・経済の地域内循環の促進を目的とした電子通貨を導入

・規律ある財政運営と行財政改革の推進

展望

・地域で支え合い、住み慣れた地域で何歳になっても安心した生活が送れる（このまちで歳をとりたくなる）。

・まちでの出会いや充実した経験で、市民が成長を実感している（市民みんなにたくさん居場所と役割がある）。

・2050年までに脱炭素化を実現するため、エネルギー利用のあり方やシステムの導入に向けた取組が進んでいる（一歩先の暮らし方を選べる）。

・着実な取組により、ファミリー世帯の転出超過が解消されている。

・多様性への理解力、想像力が醸成され、外国人が住みやすいまちへの対応などが広がっている。

・学びと活動の参加者の裾野が拡がり、まち全体で学びと活動が活性化（循環）している。

・次世代を担う人材が育ち、市内で多様な人材が活躍しており、新たな社会構造への適応が進んでいる（人と企業がチャレンジし続ける）。

・人口減少社会に対応した社会基盤（インフラ）の維持管理に計画的に取り組んでいる。

・自転車が都市課題から都市魅力となり、市内外に浸透している（安心して自転車が使えらる）。

・安心して生活が送れるよう、セーフティネットが機能している。

・自治に向けて行政のプラットフォーム機能が充実しており、それを活用したパートナーシップが深まっている（協力の仕組みがある）。

・わがまちの歴史文化を知り、それを活かす人や場が増えていく。その結果、地域資源を活かした観光により地域経済が活性化するなど好循環が生まれている。

・大規模災害や感染症対策など、災害の前後を意識したリスクマネジメントに取り組んでいる。

・まちへの肯定感が高まっている（マイナスイメージの払拭。まちを誰かに自慢したい）。

・貧困の連鎖の解消に向け、様々な家庭環境でも子どもが夢や希望を持てる環境が広がっている。

・希薄化する地域コミュニティに対応して、地域の活性化に取り組んでいる。